

新規事業採択時評価結果（平成17年度新規事業化箇所）

担当課：道路局 国道・防災課
担当課長名：鈴木 克宗

事業の概要結

事業名	一般国道191号 萩・三隅道路（延伸）	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 中国地方整備局
起終点	自：山口県萩市三見 至：山口県萩市椿	延長	5.7 km		
事業概要	萩・三隅道路（延伸）は、現道線形不良区間の解消及び異常気象時の事前通行規制区間の解消を図ることを目的とした山口県萩市三見から山口県萩市椿に至る延長5.7 kmの道路である。				
事業の目的、必要性	萩・三隅道路は一般国道191号の萩市三見から椿間の現道線形不良区間の解消（Rmin=95m、I max=8.8%）、及び異常気象時における事前通行規制区間のリダンダンシーを確保するとともに、日本海沿岸諸都市の連携を図るものとする。				
全体事業費	約193億円	計画交通量	12,500台/日		
事業概要図					

関係する地方公共団体等の意見
山口県知事、萩市長など3市町の首長で構成される国道191号整備促進期成同盟会など複数の団体から要望を受けている。

事業採択の前提条件
費用対便益：便益が費用を上回っている
手続きの完了：都市計画決定済（H4.8.21）

事業評価果

費用対便益	B/C	3.5	総費用：182億円 （事業費：158億円 維持管理費：24億円）	総便益：646億円 （走行時間短縮便益：579億円 走行費用減少便益：43億円 交通事故減少便益：23億円）	基準年 平成16年	
	感度分析の結果	交通量変動	B/C=3.0（交通量 -10%）	B/C=4.1（交通量 +10%）		
		事業費変動	B/C=3.9（事業費 -10%）	B/C=3.3（事業費 +10%）		
事業期間変動	B/C=3.6（事業期間 -20%）	B/C=3.4（事業期間 +20%）				
事業の影響	評価項目	評価	根拠			
	自動車や歩行者への影響	渋滞対策	-	注目すべき影響はない		
		事故対策	◎	安全性の向上（事故の減少） 死傷事故率が高い箇所での対策事業である ・年間死傷事故率 181件/億台キロ （全国平均：118件/億台キロ、山口県内平均：71件/億台キロ）		
		歩行空間	-	注目すべき影響はない		
	社会全体への影響	住民生活	-	注目すべき影響はない		
		地域経済	○	大型特殊車両の利便性の向上、隘路の解消 建築限界不足トンネル（玉江トンネル）区間の回避が可能となり、利便性が向上		
災害		◎	異常気象時事前通行規制区間の解消、防災対策危険箇所の解消 ・連続雨量250mm通行規制区間（約1.4km）、及び法面の要防災対策箇所（3箇所）が回避される ・現道線形不良区間の解消			
環境		-	注目すべき影響はない			
地域社会	○	観光産業の促進 【観光産業への発展に貢献】 県内観光客の約1割、北部観光客の約7割を集客（萩市、長門市）する地域の支援 （平成15年観光客数 山口県全体22,849千人、北部計3,687千人、萩・長門計2,469千人）				
事業実施環境	○	山口県の「みらいデザイン21（ジョイロードプラン）」「山口県観光戦略会議」に位置づけられる事業であり、これらのプロジェクトを支援となる				

採択の理由

費用対便益比が3.5と、便益が費用を上回っているとともに、都市計画手続きが完了していることから、事業採択の前提条件が確認できる。
また、当該事業箇所における安全性の向上、及び異常気象時事前通行規制区間の解消等、事業の効果が高く、地域社会への貢献も大きいと判断できる。
以上より、本事業を採択した。

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額の割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの